

## モンテッソーリ教育とマヤ暦

### はじめに

本講座は天皇誕生日に開催された大規模な Zoom 研修(約 750 名参加)で、講師は一方通行での配信形式で進行しています。今回の字幕 002 は、研修の第一テーマである「モンテッソーリ教育とマヤ暦」の冒頭部分にあたります。

---

## 1. なぜ、いま「モンテッソーリ教育」なのか

### モンテッソーリが注目される背景

近年、日本では将棋棋士の藤井聡太氏、世界では GAF(A(Google)・A(Apple)・F(Facebook)・A(Amazon))の各創業者、ビル・ゲイツ、バラク・オバマ元大統領など、各分野のトップに立つ人物たちが等しくモンテッソーリ教育を受けていたことが広く知られるようになりました。また、アドラー心理学のアドラーや経営学のドラッカーも、モンテッソーリの影響を強く受けていると言われています。

世界ではすでに広く普及しているモンテッソーリ教育ですが、日本では教育学者や教員を除き、一般にはまだ十分に知られていないのが現状です。講師は「重要なものほど日本への浸透が遅い」と指摘しつつ、モンテッソーリ教育の普及が子どもたちの健全な育ちと、この国の未来を決定づけると強調しています。

### 教育こそが未来を決める

アドラーやシュタイナーもかつて政治から社会改革を試みたものの、純粹さの点で壁にぶつかり、最終的に「教育から変える」という道を選んだと説明されています。この国を愛すればこそ、教育に力を注がざるを得ない—それが講師の根本的な姿勢です。

---

## 2. マリア・モンテッソーリ女子について

マリア・モンテッソーリは 1870 年 8 月 31 日生まれ(KIN5)のイタリア初の女性医師であり、教育学者でもあります。マヤ暦で「音 5」にあたる 5 は「中心」を意味し、控えめでありながら一度決めたことを貫く強さを持つとされています。教育という時間のかかる、忍耐を要する分野において、この 5 の資質が深く体现されていると解説されています。

## アドバイザーとしての関わり方について

モンテッソーリ教育の全容は膨大であり、それを専門的に極めることも大切ですが、講師はアドバイザーとして「根幹を知り、それを誠意を持って伝えることで十分な役割がある」と述べています。専門家でなくても躊躇せず伝えてよい——大切なのは、どれだけそのものにエネルギーと思いを注いでいるかであるという考え方が示されています。

野村克也監督が何度もクビの危機を乗り越えながら 50 年以上野球に向き合い続けた逸話を引き、「意識の向け方」と「問いかけの量と質」こそが、成長を決める、という普遍的なメッセージも語られています。

---

## 3. 子どもに対する認識

### モンテッソーリ教育の根本

モンテッソーリ教育の基本となる子どもへの認識は以下の通りです。

「子どもは自らを成長・発達させる力を持って生まれてくる。大人は子どもに教えるのではなく、その力を信じ、自由を保障し、自発的な活動を援助する存在に徹しなければならない。」

これは「子どもは何も知らない」という一般的な認識とは根本的に異なります。遺伝学の研究者の間でも、子どもは生まれた時点ですでに多くのことを知っていると考えなければ説明がつかないという見解が多くあると紹介されています。

### 認識の違いがもたらす影響

大人が自分の価値観を子どもに押しつけることは、この認識の正反対にあたります。「子どもはもともと成長する力を持っている」という認識が広まるだけで、過度な押しつけや虐待といった問題が相対的に減少すると講師は主張しています。夫婦間や家庭においても、認識・概念のズレを認め合うことがトラブル防止の出発点になるという視点も示されています。

---